

日本社会情報学会 (JASI) 九州支部シンポジウム

<情報通信月間参加行事>

# 「九州からアジアの情報化を読む」

経済成長とともに ICT 分野で急速な発展を遂げるアジア地域における展開を、生産・消費・生活の観点から読み解きながら、今後の九州地域戦略を考える。

平成 22 年

6 月 9 日 (水) 13:30 ~ (開場 12:30)

会場：福岡国際会議場  
(福岡市博多区石城町2-1)

事前申込要

## プログラム

12:30	開場・受付開始
13:30 ~ 13:35	開会の挨拶 (主催者)
13:35 ~ 14:25	講演 1 「中国の情報化と情報技術産業」 丸川知雄 (東京大学社会科学研究所教授)
14:25 ~ 15:15	講演 2 「アジアの情報化と日本の国際競争力～競争と協力の観点から～」 大杉卓三 (九州大学システム LSI 研究センター学術研究員)
15:15 ~ 15:30	休憩
15:30 ~ 16:30	パネル・ディスカッション (質疑応答を含む) 「九州を取り巻く日本、そしてアジアの情報化をどう捉えるか」 コーディネーター 河又貴洋 (長崎県立大学シーボルト校) パネリスト 丸川知雄 (東京大学社会科学研究所教授) 大杉卓三 (九州大学システム LSI 研究センター学術研究員) 飯塚留美 ((財) マルチメディア振興センター主席研究員)
16:30 ~ 16:35	閉会の挨拶 (主催者)

主催：日本社会情報学会 (JASI) 九州支部 (社)九州テレコム振興センター  
協賛：情報通信月間推進協議会

## 申込・お問い合わせ

**一般** (社)九州テレコム振興センター

担当：野村雪子

e-mail : web.ktele-com@kyushu-telecom.or.jp

FAX : 096-322-0186

**会員** 日本社会情報学会 (JASI) 九州支部

支部長：河又貴洋

e-mail : t.kawamata@sun.ac.jp

FAX : 095-813-5106

## 九州からアジアの情報化を読む

経済成長とともに ICT 分野で急速な発展を遂げるアジア地域における展開を、生産・消費・生活の観点から読み解きながら、今後の九州地域戦略を考える。

### ●趣旨

リーマンショック後の経済危機にも逸早い回復をみせるアジア経済。その原動力ともいえるアジアの世界の工場地帯としてのプレゼンスとともに、その成長によって牽引された旺盛な消費社会が、まさに世界経済の多極化を推し進めている。他方、日本は国際金融恐慌の直接的な影響が比較的限定的な範囲で収まったにも拘わらず、輸出産業への間接的な効果を大きく受け、回復の兆しがみえた国内経済に更なる迷走を余儀なくされた。

一方で、情報通信技術 (ICT) の進展は、グローバル化の波とともに急速に展開し、新たなビジネスシーンを開拓してきている。その象徴とも言うべき検索エンジンを中軸とするインターネット・ビジネスはクラウド化 (雲の中へ) し、データ処理の分散化から再中央集権化へと移行し始めている。また、i-Phoneはモバイル通信の新たなモデルを提示しながら、スマートフォンの普及を先導している。さらに、i-Podで急展開を見せた音楽のネット配信ビジネスは音楽業界のビジネスモデルを根本から変革し音楽CD販売を凌ぎ始めているとともに、アマゾンの「Kindle」(キンドル)やi-Padで話題を呼ぶ電子書籍化の動きが著作者及び出版業界を巻き込んで活発化してきている。

そして、これら技術の高度化に伴うアプリケーションの多様化を、今一度、グローバルな視野から捉えればどのように見えるであろうか。情報通信技術のビジネス展開において、キラー技術を米国企業に押さえられながら、すり合わせ統合型技術に優位性を誇ってきた日本企業は「ガラパゴス化」した国内市場に囚われて、海外市場に打って出る戦略に二の足を踏んでいるかに思われる。その合間にも、製造業は韓国や中国の企業に追い上げられている。

本シンポジウムは、このような情報通信技術のグローバルな急転回期にあつて、われわれの生活社会ならびに産業社会はどのように変化しうるのであるのか、とりわけアジア地域を広域的に眺望した場合、日本でもアジアの他諸国と最も近接する九州地域は、アジアの情報化の波をどのように受け止めるべきであろうか。自地域における情報化の基盤を確保するとともに、われわれの生活環境 (生産・消費環境を含む) にどのようにその技術を活用していくべきか。その問いへの解答を議論しながら、九州の地域情報化の関係者とともに考えていきたい。

### ●スケジュールおよび概要

日 時： 平成 22 年 6 月 9 日 (水) 13:30～ (12:30 開場)

会 場： 福岡国際会議場 (福岡市博多区石城町 2-1)

<http://www.marinemesse.or.jp/congress/access/>

主 催： 日本社会情報学会 (JASI) 九州支部、(社)九州テレコム振興センター

協 賛： 情報通信月間推進協議会

定 員： 200名程度 (事前申込要)

参加費： 無料

申込・問合せ：氏名・所属を明記のうえ、下記までe-mailまたはファックスでお願いします。

(社)九州テレコム振興センター

担当： 野村雪子

e-mail： web.ktele-com@kyushu-telecom.or.jp FAX： 096-322-0186

## テーマ 「九州からアジアの情報化を読む」

### プログラム

- 12:30 開場・受付開始
- 13:30-13:35 開会の挨拶（主催者）
- 13:35-14:25 講演1 「中国の情報化と情報技術産業」  
丸川知雄（東京大学社会科学研究所教授）
- 14:25-15:15 講演2 「アジアの情報化と日本の国際競争力～競争と協力の観点から」  
大杉卓三（九州大学システム LSI 研究センター学術研究員）
- 15:15-15:30 休憩
- 15:30-16:30 パネル・ディスカッション（質疑応答を含む）  
テーマ「九州を取り巻く日本、そしてアジアの情報化をどう捉えるか」  
コーディネーター 河又貴洋（長崎県立大学シーボルト校）  
パネリスト 丸川知雄（東京大学社会科学研究所教授）  
大杉卓三（九州大学システム LSI 研究センター学術研究員）  
飯塚留美（(財) マルチメディア振興センター主席研究員）
- 16:30～16:35 閉会の挨拶（主催者）

### 【講師紹介】

丸川知雄（東京大学社会科学研究所教授）

東京大学経済学部卒業 アジア経済研究所研究員（中国社会科学院工業経済研究所客員研究員）から東京大学社会科学研究所へ。主な著書は『現代中国の産業一勃興する中国企業の強さと脆さ』（中公新書）、『現代中国経済シリーズ3 労働市場の地殻変動』（名古屋大学出版会）他多数。

大杉卓三（九州大学システム LSI 研究センター学術研究員）

九州大学大学院比較社会文化研究科博士課程単位取得退学 九州大学ベンチャービジネスラボラトリー研究員、(財)ハイパーネットワーク社会研究所研究員、九州大学大学院比較社会文化研究院助教を経て、現職。主な著書は『情報ネットワークで結ぶシルクロード—国際開発協力にみる現代中央アジア』（中国書店）、『BOPを変革する情報通信技術—バングラディッシュの挑戦』（編著、集広舎）。

飯塚留美（(財)マルチメディア振興センター主席研究員）

日本女子大学大学院人間社会研究科現代社会論専攻修士課程修了 (財)国際通信経済研究所（現(財)マルチメディア振興センター）へ。駿河台大学メディア情報学部／文化情報学部非常勤講師、総務省情報通信審議会専門委員。主な著書（共著）は『情報通信の国際提携戦略』（中央経済社）、『東アジアのメディア・コンテンツ流通』（慶應義塾大学出版会）。

河又貴洋（長崎県立大学シーボルト校国際情報学部情報メディア学科准教授）

日本社会情報学会（JASI）九州支部長 電気通信大学電気通信学部卒業、筑波大学大学院修士課程経営政策科学研究科修了 (財)国際通信経済研究所研究員を経て、現職。主な著書（分担執筆）は『通信・放送の融合』（日本評論社）、『情報通信の国際提携戦略』（中央経済社）、訳書に『日本の企業進化』（共訳）がある。

(社)九州テレコム振興センター

野村 雪子 行き

FAX 096 - 322-0186

日本社会情報学会 ( J A S I ) 九州支部  
 2010 年情報通信月間参加行事 シンポジウム  
 平成 2 2 年 6 月 9 日 (水曜) 開催

## 参加申込用紙

平成 年 月 日

お名前	
ご所属	
ご連絡先	〒  TEL FAX E-mail

複数名でご参加頂きます場合には、下記にご記入ください。

用紙が不足した場合にはお手数ですが、複写してお使いください。

お名前 ご所属 ご連絡先	
お名前 ご所属 ご連絡先	
お名前 ご所属 ご連絡先	
お名前 ご所属 ご連絡先	
お名前 ご所属 ご連絡先	

ご記入頂いた申し込み用紙は、FAX : 096 - 322-0186までご送信下さいますようお願い致します。